

# 俵ヶ浦トレイル



「トレイル」とは、森や里山を通る歩道のことです。近年、その土地の自然や文化を歩いて楽しむ旅が注目され、各地にトレイルが整備されています。そして、佐世保の俵ヶ浦町でも住民の手でトレイルコースがつくられました。今回の特集は、九十九島の絶景と明治の要塞、そして地元住民の愛が詰まったトレイルを紹介します。

## いざ、歴史遺産トレイルへ

佐世保港の入り口に位置する俵ヶ浦半島は、九十九島南部と佐世保港を見渡せる風光明媚なところです。

のどかな田園風景が広がる中に展海峰や花の森公園、白浜海水浴場やキャンプ場が点在し、市民の憩いの場所となっています。

また、ここは明治時代に佐世保の軍港を防御するための要塞が築かれた場所でもあります。砲台群や観測所の跡は建設から110年以上経った今も、当時の姿のまま山中にひっそりと残っています。

半島の先端、俵ヶ浦町ではこうした美しい風景や歴史遺産を訪ねて来る人たちのために、昨年からはトレイルコースづくりを始めました。本市や佐世保観光コンベンション協会の協力を得て、コー

ス選びや道標の制作を住民自らの手で行いました。

その第1弾となるのが「俵ヶ浦町歴史遺産トレイル」です。

今回は、海上自衛隊OBの近藤健一さんのガイドで、九十九島の手付かずの自然や浦々の風景を見ながら、明治の歴史遺産を訪ねるトレイルを体験しました。

この日はSASEBO時旅ネットワークの皆さんも参加。全長約5キロメートル、高低差約100メートルで舗装道が多い比較的緩やかなコースを歩きました。

スタート地点の俵浦中央バス停からは、船が行き交う佐世保港や対岸の針尾送信所(無線塔)が見えます。県道沿いの道標を目印に、最初の見どころとなる「丸出山観測所跡」に向かいます。

木漏れ日が差す小道を抜け、畑が広がる風景を進むと目の前に石垣が現れました。旧陸軍佐世保要塞の丸出山観測所跡です。全国でも珍しい、鋼鉄の装甲掩蓋(敵弾を防ぐ覆い)が当時のまま残っています。



ガイドの近藤健一さん。俵ヶ浦の歴史に詳しく、時旅ガイドとしても活躍中です

(右)丸出山観測所跡。当時の姿がそのまま残されており、歴史を感じる景観です

(上)観測所跡から見渡せる九十九島や愛宕山の景色

(中)棲息掩蔽壕が並ぶ小首砲台

(下)高後崎船番所跡を過ぎ、海沿いのコースを歩く参加者



### 佐世保要塞・丸出山観測所跡

明治22(1889)年に佐世保鎮守府が置かれると、軍港の防御が急務となりました。旧陸軍は明治33年に佐世保要塞を置き、俵ヶ浦に観測所と3砲台を建設。ほかに牽牛崎(日野町)、石原岳(西海市)などに砲台を置き、日露戦争に備えました。「昔はここから海上を観測して、標的までの距離や方位を砲台に知らせていたんです」と近藤さんの絶景が見下ろせます。かつて兵士たちもここから同じ光景を見ていたのでしょうか。

### 俵ヶ浦の砲台群を訪ねる

日露戦争の勝利によって敵が上陸する可能性が消え、兵器の進歩によって時代遅れとなった佐世保要塞は廃止され、戦闘に参加することなくその役目を終えました。

今回は近藤さんの案内で、コースに含まれない「丸出山砲台」や「小首砲台」も見ることができました。これらの砲台は明治34年までに完成し、当時は敵艦を迎え撃つための大砲が装備されていたとのこと。スラリと並ぶ小首砲台の棲息掩蔽壕(兵舎や弾薬庫)は、まさに圧巻でした。付近には当時のままの門柱も残っているほか、昭和20(19

45)年に軍の飛行機が墜落し、亡くなった軍人をしのいで地元の婦人会が建てた慰霊碑も残っているそうです。これらの砲台跡などはコース外にあるため道標がなく、周辺は木々に覆われて大変危険です。ガイドが同行しないと立ち入りできませんので、ご注意ください。

コースは山から佐世保港側へ下り、江戸時代に平戸藩が海上を警備した「高後崎船番所跡」へ立ち寄った後、ゴールへ。近藤さんの解説を聞きながら、佐世保港の歴史をたどる5時間ほどの旅でした。

### きっかけは丸出山の整備から

「俵ヶ浦町歴史遺産トレイル」のきっかけは、地元住民の手で丸出山観測所跡の整備に取り掛かったことでした。それまでも除草を行っていましたが、当時の観測所跡は樹木に遮られて海が見えず、道にも泥が堆積していました。「昔は海を360度見渡せた場所。伐採すればきれいな九十九島が全部見えるはず」と、平成23年に市の協力や地主の了解を受け、住民有志で伐採を開始。トラックや重機は自分たちで手配し、3日ばかりで樹木を切り、泥を運び出す大変な作業でした。

## 俵ヶ浦トレイルコース



俵ヶ浦町へのアクセス  
市営バス俵ヶ浦行き「俵浦中央」バス停下車  
(佐世保駅前から約50分)  
※車の場合は白浜海水浴場の駐車場をご利用ください。

## トレイルマップをホームページに掲載

佐世保観光コンベンション協会では、俵ヶ浦トレイルを楽しんでもらうためのマップをホームページに掲載しています(ダウンロードできます)。  
⑤佐世保観光情報センター(三浦町21-1、JR佐世保駅構内) ☎22-6630  
<http://www.sasebo99.com/>



## トレイルの楽しみ方

- シーズンは夏以外  
夏はマムシや蚊が多く、熱中症の危険もあります。
  - イノシシに注意  
遭遇した場合は近づかず、刺激しないでください。
  - 地域の暮らしを大切に  
コース外への立ち入りやゴミのポイ捨て、大声はご遠慮ください。
  - 装備・持ってくるもの  
弁当や携行食、飲み物は必ず持参してください。帽子、長袖で乾きやすい服、軍手、すべらない運動靴、雨具を用意しましょう。
- ※お手洗いは白浜海水浴場・キャンプ場、花の森公園、展海峰をご利用ください。

## 手作りのコース作り



【上】トレイルコースの道標設置に参加した俵ヶ浦町住民と九州大学景観研究室の皆さん、ボランティアとして協力した米海軍佐世保基地、海上自衛隊などの皆さん【左下】道標の文字に色を塗る俵ヶ浦の子どもたち【中下】道標を設置する皆さん【右下】俵ヶ浦公民館の南部前館長(左)と湯浅館長(右)

## 住民の手による トレイルづくりがスタート

昼も暗い場所だった丸出山観測所跡は、伐採によって展望所として復活。絶景スポットとして紹介され、見物客が訪れるようになりました。一方で、道に迷う人がいたり、車で道を塞いでしまったりするなどの問題が生じました。俵ヶ浦町公民館・前館長の南部其代治さんと、現館長の湯浅修さんは、佐世保観光コンベンション協会と案内板を立てるなどの改善策を検討していました。

昨年に入って、佐世保港と九十九島の2つの海を臨む景観と、要塞などの歴史遺産を歩いて楽しんでもらおうと、同協会と協力してトレイルコースづくりに取り掛かりました。

今回のコースづくりでは同協会の依頼を受けた九州大学景観研究室が住民ワークショップ(研究集会)を開催。「実際に学生たちと一緒に歩きながら、景観の見せ方を考えてコースを作りました」と湯浅さん。ワークショップごとに景観や歴史遺産などの地域資源、ルート選び、道標のデザインや設置場所について、学生たちと住民、同協会が意見を重ねました。「2回、3回と回を重ねることにどんどん盛り上がりつつあった」と南部さんは話しました。

ことし3月15日には住民をはじめ、米

海軍佐世保基地や海上自衛隊のボランティアなど約80人が集まり、分岐点などに道標を設置しました。道標の素材には、費用が掛からず住民の手で補修ができる間伐材を使用。地域の子どもたちが制作を担当し、文字を彫ったり色を付けたりました。米海軍佐世保基地にとっても、俵ヶ浦町住民との共同作業は初めてのことでした。

トレイルコースづくりを振り返って、湯浅館長は「予算がない中で一から立ち上げるのは大変。何回も話し合いをして、時間もかかりました。そのたびに婦人部が毎回みんなに炊き出しを用意してくれたらいいね。町内の雰囲気良かったからうまくいったんじゃないかな」と話しました。

佐世保観光コンベンション協会では、九十九島パールシーリゾートから半島先端までのコース「俵ヶ浦半島トレイル」を計画。新しいコースも地域の人たちと共に作りながら、今後は九十九島や歴史遺産などを楽しめる来訪者向けのプログラムに成長させたいそうです。南部さんも「若い人に俵ヶ浦を訪ねてもらったきっかけになれば」と、期待しています。

取材日 6月7日、23日